

私の国際学術交流

岩本由輝（東北学院大学）

ミナーを持つという。また、出かけて来るようとの誘いがあったので、今回は、日本近世における漁村共同体の事例をもって報告して来たいと考えている。村研会員にも是非参加して頂きたいが、招待といつても旅費はこちら持ちなので、積極的にお勧めはできない。関心のある方は、岩本までお問い合わせ願いたい。

タイのチュラロンコーン大学経済学部教授チャティップの招きで、一九九二年一二月二五日、二六日にアユタヤ歴史研究センターにおいて開かれた第一回インターナショナル・セミナーに主報告者として出席した。セミナーのテーマは、「村落共同体の比較地域史研究」であり、アメリカ・イギリス・イタリア・オーストラリア・カナダ・タイ・日本・ミャンマーから四〇名ほどが参加した。私は、「日本における村落共同体とその研究動向」を報告し、もう一人の主報告者としてチャティップ氏が「タイにおける村落共同体とその研究動向」について述べた。

私が共同体を前近代社会における歴史的存在として把握する立場であるのに対し、チャティップ氏が現代における共同体の政策的活用を主張する立場であるから、他の参加者を含めて討論はきわめて活発なものとなつた。村研における共同体をめぐっての否定論と肯定論の“国際版”と思って頂ければよいと思う。なお、私の報告における、かつての日本の農村社会における本分家のあり方について、とくにタイの研究者から強い興味が示され、何人もの人から再三説明を求められた。タイでは、どうも日本のような本分家関係どころか、家に本末の関係を見るということはなさそうである。

ところで、チャティップ教授はこのような議論を数年継続してやりたいといい、一九九三年八月二九日から八月三一日まで、再びセ